

Redwood III SP

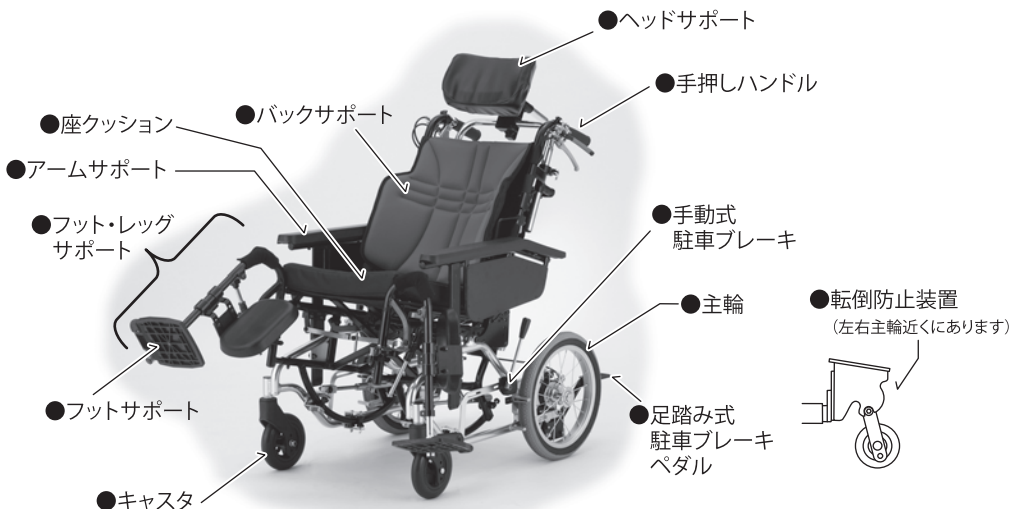
レッドウッドスリー エスピー

フット・レッグサポート 挙上式仕様

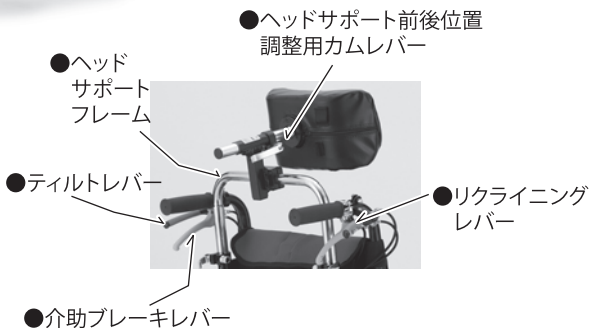
取扱説明書

この度は、製品をお買い上げ頂きまして、まことにありがとうございます。製品を安全、快適にご利用いただくための大切な内容が記載されております。ご使用前に必ずお読みください。
なお、保証書も掲載しておりますので、大切に保管してください。

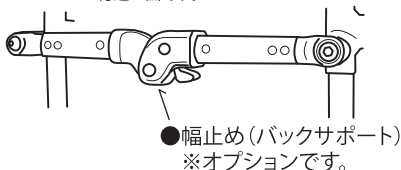
各部の名称



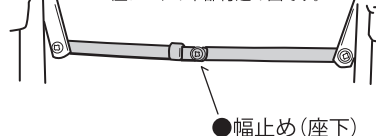
出荷時は運送時の安全の関係でフットサポートが外側に回転して収納されている場合があります。フットサポートの戻し方につきましては、P12をご覧ください。



※バックサポート背面付近の図です。



※座シートの下部付近の図です。





はじめにご確認ください

Redwood III SPは、ティルトとリクライニング調整の組み合わせで、バックサポート(背面)が水平面より後傾するようになっていますが、使用者の乗車中は絶対にバックサポート(背面)を水平状態より後傾させないでください。乗車者が製品から転落する、乗車者の体調に不具合が生じるなど、重大な事故につながるおそれがあります。



バックサポート(背面)を水平状態よりも後傾させての使用は禁止です。



警告

本取扱説明書の記載内容を無視して誤った取扱いをすると使用中に不具合を生じ、死亡または重傷を負う可能性があります。

仕様

- キャスト: 6 インチ P U
- 主輪: 1 4 インチ コンパクト ドラム 式 制 動 ブレーキ つ き 車 輪
- 全幅: 6 2 cm
- 全長: 1 0 9 cm
- 全高: 1 0 6 ~ 1 2 1 cm
- アームサポート高: 1 8 ~ 3 0 cm
- 重量: 2 8 kg
- 耐荷重: 1 0 0 kg (積載物含む)

ヘッドサポートフレームの外しかた・取り付けかた・高さ調整のしかた



外しかた

ヘッドサポートフレームを固定している、左右のヘッドサポート固定用ノブボルトを緩めると、ヘッドサポートフレームを上引き抜いて外すことができます。

取り付けかた

ヘッドサポートフレームを左右のヘッドサポート固定用ノブボルトがついているパイプの上から差し込み、左右のヘッドサポート固定用ノブボルトをしっかりと締め、固定してください。(しっかりと固定され、ヘッドサポートフレームを引き上げても抜けないことを確認してください。)

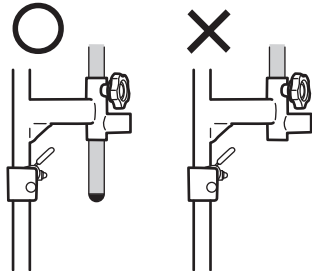
高さ調整のしかた

ヘッドサポートフレームを固定している、左右のヘッドサポート固定用ノブボルトを緩めると、ヘッドサポートフレームの高さを上下に調整することができます。調整後は、左右のヘッドサポート固定用ノブボルトをしっかりと締め、固定してください。(しっかりと固定され、ヘッドサポートフレームを引き上げても抜けないことを確認してください。)



**注意
警告**

ヘッドサポートフレームが、左右のヘッドサポート固定用ノブボルトがついているパイプの下から出ている状態で製品を使用してください。ヘッドサポートフレームが右図のパイプの下から出ていない状態で使用すると、製品の破損や事故につながるおそれがあります。



禁止 ヘッドサポートを取りつけない状態での使用はしないでください。

車いすの拡げかた

- 1** 手押しハンドルを持って軽く左右に拡げてください。



- 2** 片方の手押しハンドルを持ち上げるように反対側の座面下のパイプ部を下の方へ押し下げます。



注意

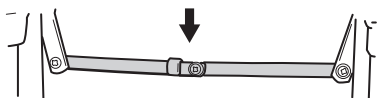


押し下げる際、座面パイプより下に手や指を入れないでください。危険です。

- 3** 幅止めを上から手で押して、まっすぐに伸ばします。

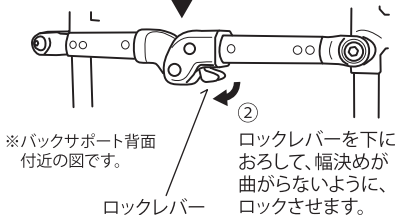
幅止め(座下)

※座シートの下部付近の図です。



幅止め(バックサポート)

- ① 上から押してまっすぐに伸ばしてから、



※バックサポート背面付近の図です。

ロックレバー

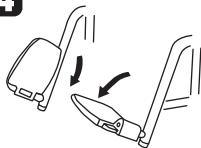
- ② ロックレバーを下におろして、幅決めが曲がらないように、ロックさせます。



注意

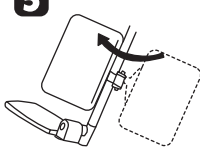
幅止めを押す際に、幅止めパーツの隙間に手や指を挟まないように、十分に注意してください。

4



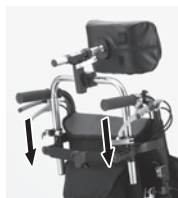
フットサポートプレートを下方へ回転させるようにセットします。使用者が車いすに座ってから行うのが一般的です。

5



レッグサポートパッドをフレームの外側から内側へ回転させてセットします。

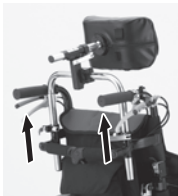
6



ヘッドサポートを、バックサポートパイプに奥までしっかりと差し込み、本取扱説明書 P 3 の手順で固定してください。(しっかりと固定され、ヘッドサポートを引き上げても抜けないことを確認してください。)

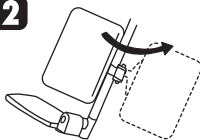
車いすの折りたたみかた

1



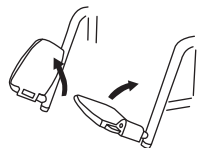
ヘッドサポートを、外します。(ヘッドサポートの外しかたについてはP 3をご覧ください。)

2



レッグサポートパッドをフレームの外側へ回転させて収納します。

3

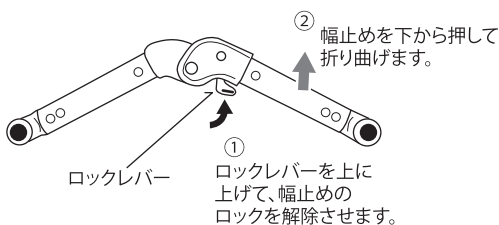


フットサポートプレートを上方へ回転させて収納します。

4

まっすぐになっている幅止めを下から手で押して、折り曲げます。

幅止め (バックサポート)

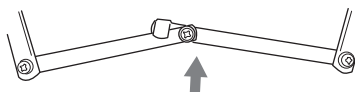


ロックレバー

① ロックレバーを上を上げて、幅止めのロックを解除させます。

② 幅止めを下から押して折り曲げます。

幅止め (座下)



幅止めを下から押して折り曲げます。



幅止めを押す際に、幅止めパーツの隙間に手や指を挟まないように、十分に注意してください。

5



座面シートの、前後中央部を持ち上げます。

6



手押しハンドルを持って左右から押し縮めるように、折りたたんでください。

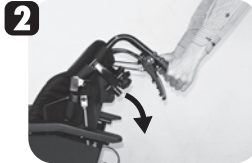
バックサポートの折りたたみかた・固定のしかた



注意

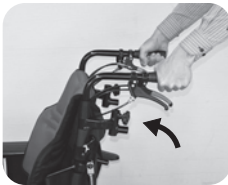
バックサポートの折りたたみは、ヘッドサポートフレームを車いすからはずした状態でおこなってください。ヘッドサポートフレームを装着したままバックサポートを折りたたんだ場合、バックサポートフレームがリクライニング用のシリンダーにあたり、車いすが破損するおそれがあります。

折りたたみかた



手押しハンドルを握り、一方の手でバックサポート折りたたみレバーを下に押しながら、手押しハンドルを手前に引くように少し折り曲げます。反対側も同様の手順で少し折り曲げてください。続いて、左右同時に折りたたみます。

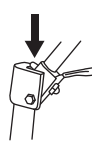
固定のしかた



手押しハンドルを握り、上方へ引き起こすように持ち上げてください。左右のスライドピンが「カチッ」とロックされたことを必ずご確認ください。



注意
警告



- 矢印の部分に手や指を置かないでください。
- 矢印の部分にバックサポートシートをはさみこまないように注意してください。
- 車いすに乗る際は、完全にバックサポートが固定されている事を確認してから、座ってください。

足踏み式駐車ブレーキのかけかた

ペダルを足で踏むことでブレーキがかかります。解除する場合はペダルを足で跳ね上げてください。



ペダル



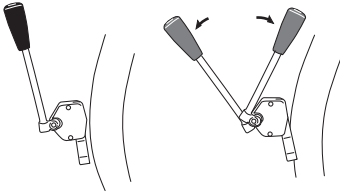
注意
警告

- ・しっかりブレーキをかけていても、乗降時などに、横から強い力が加わると車いすは簡単に動いてしまいますので、十分注意してください。
- ・坂の途中では駐車しないでください。やむを得ず駐車する場合は2輪以上に車止めをしてください。
- ・ペダルに体重をあずけるなど、レバーに強い力がかかる行為はしないでください。
- ・駐車の際はかならず、左右両輪ともブレーキをかけてください。
- ・駐車ブレーキをかけた状態で車いすを無理に押ししたり引いたりしないでください。

駐車ブレーキのかけかた

解除時

駐車



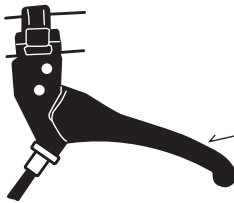
- レバー先端のノブを手で前方に押す、もしくは後方に引くと駐車ブレーキがかかります。中間の位置が解除です。



注意
警告

- ・駐車ブレーキは左右両輪ともしっかりとかけてください。片側だけのブレーキをかけた状態で駐車をしないでください。
- ・しっかりブレーキをかけていても、乗降時などに、横から強い力が加わると車いすは簡単に動いてしまいますので、十分注意してください。
- ・坂の途中では駐車しないでください。やむを得ず駐車する場合は2輪以上に車止めをしてください。
- ・ブレーキレバーに体重をあずけたり、足でレバー操作するなど、レバーに強い力が加わる行為はしないでください。

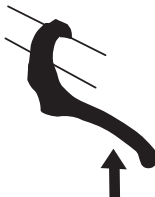
介助ブレーキのかけかた



- 介助ブレーキレバー
(黒いレバー)



解除時



介助ブレーキ

左右の介助ブレーキレバーを同時に握ると介助ブレーキがかかります。



禁止

介助ブレーキは、駐車ブレーキとして使用することはできません。駐車目的では使用しないでください。

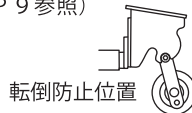
ティルト・リクライニングの操作方法



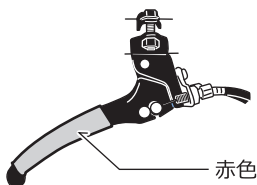
ティルト及びリクライニング操作を行う前に、

- 左右の駐車ブレーキがしっかりかかっていること (P 6・P 7 参照)
- 転倒防止装置が転倒防止位置になっていること (P 9 参照)

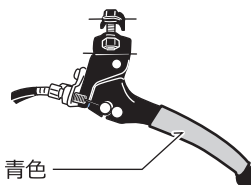
を、必ず確認してください。



- ティルトレバー
(赤色のカバーのついたレバー)



- リクライニングレバー
(青色のカバーのついたレバー)



- ティルトのしかた

ティルトレバーを手押しハンドルグリップと一緒に握り後方へ倒し、止めたい位置でレバーを離せば止まります。(ティルト操作は、介助者が胸や肩、腕で車いすをしっかりと支えながらゆっくりと行ってください。)

ティルト



- リクライニングのしかた

リクライニングレバーを手押しハンドルグリップと一緒に握り後方へ倒し、止めたい位置でレバーを離せば止まります。(リクライニング操作は、介助者が胸や肩、腕で車いすをしっかりと支えながらゆっくりと行ってください。)

ティルト&リクライニング



Redwood III SPは、ティルトとリクライニング調整の組み合わせで、バックサポート(背面)が水平面より後傾するようになっていますが、使用者の乗車中は絶対にバックサポート(背面)を水平状態より後傾させないでください。乗車者が製品から転落する、乗車者の体調に不具合が生じるなど、重大な事故につながるおそれがあります。



バックサポート(背面)を水平状態よりも後傾させての使用は禁止です。



- ティルト及びリクライニング操作は必ず駐車ブレーキをかけて行ってください。
- ティルト及びリクライニングを大きく倒した状態から起こす際には、角度を一度に大きくもどさず、少しずつ起こし、搭乗者の様子を確認しながら起こしてください。急に大きく角度を起こすと、搭乗者の血圧が低下し、体調に悪影響を及ぼす可能性があります。
- ティルト操作時に、搭乗者が足を外側に出していると、アームサポートと座フレームで足をはさんでケガをするおそれがあります。搭乗者の足が座面から横に出ていることを確認して操作を行ってください。
- ティルト及びリクライニング操作時にはフレームの各部が連動して動作します。ティルト及びリクライニング操作時に、フレームの間などに身体や手指を入れないでください。はさんでケガをするおそれがあります。
- ティルトにより座面を水平より前傾させた状態での走行はしないでください。乗車者の落下のおそれがあります。

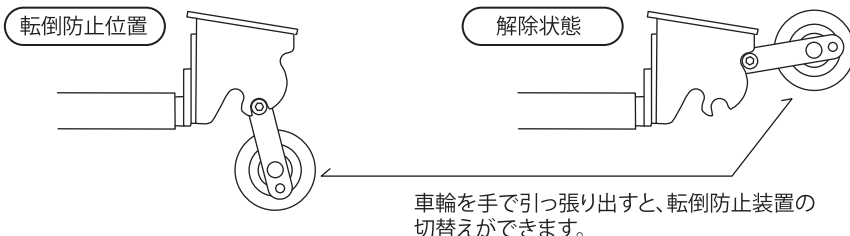


転倒防止装置のつかいかた

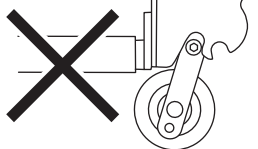
車いすを使用の際は、左右の転倒防止装置を、転倒防止位置にセットしてください。

段差を乗り越える際などに転倒防止装置が邪魔になる場合には、転倒防止装置を一時的に解除状態にします。

※ただし、ティルトもしくはリクライニングで車いす背面(バックサポート)を大きく後傾させているような場合は、転倒防止装置を解除状態にしないでください。



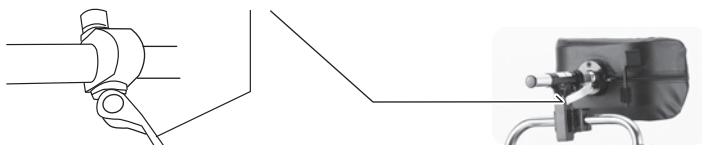
この状態では
使用しないで
ください



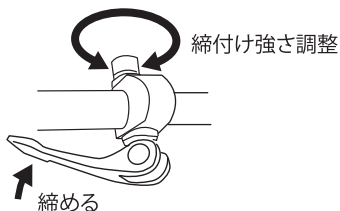
転倒防止装置は車いすの転倒の危険を完全になくすものではありません。転倒防止を使用していても、車いすが転倒しないように十分に注意しながら車いすを使用してください。

ヘッドサポート前後位置の調整のしかた

ヘッドサポート前後位置調整用カムレバー



解除

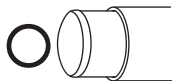


- ヘッドサポート前後位置調整用カムレバーを解除して、任意の前後位置にヘッドサポートを調整します。調整したら、左右のカムレバーを締めてください。(しっかりと固定されたことを確認してください。) 締付けの強さはレバーの反対側のネジで調整してください。



注意

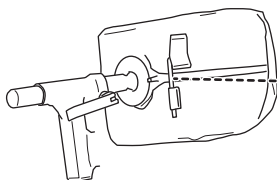
ヘッドサポートは、前後位置調整レバーのついているパイプの後端からインナーパイプが出ている位置で使用してください。後端からインナーパイプが出ていない状態での使用をすると、製品の破損のおそれがあります。



ヘッドサポートの角度・方向の調節のしかた

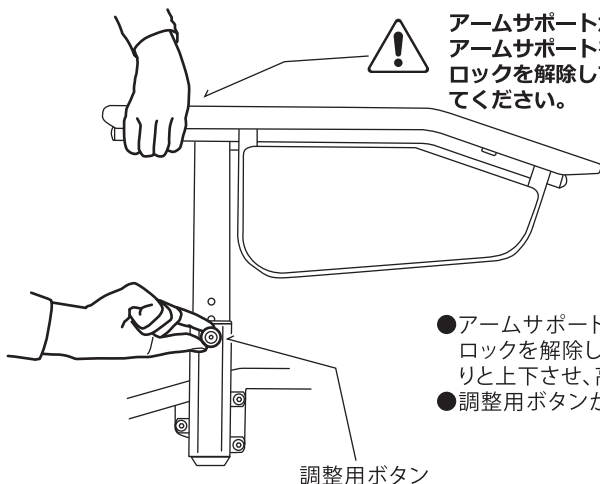


- 上図のボルトを4mmの六角レンチで緩めると、ヘッドサポートの左右位置や角度を調整することができます。調整したら、緩めたボルトをしっかりと締めてください。(ヘッドサポートがしっかりと固定されたことを確認してください。)



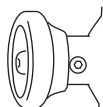
新車購入時、4mm六角レンチ(サービス工具)はヘッドサポート後方に収納されています。

アームサポート高の調整のしかた



- アームサポートを持ち、調整用ボタンを引いて、ロックを解除し、アームサポートの高さをゆっくりと上下させ、高さを調整します。
- 調整用ボタンがロックされれば調整は完了です。

調整用ボタン



ボタンが外側に引っぱり出された状態で保持された状態

ロック解除状態



ボタンが本体内側に引きこまれている状態

ロック状態



注意 警告

- ・手指等を挟まないように注意してください。
- ・調整はアームサポートが落ちないようにアームサポートを持ちながらおこなってください。アームサポートから手を離してロックを解除すると、落ちたアームサポートとフレームで手指や身体をはさんでケガをするおそれがあります。
- ・調整後はアームサポートが調整用ボタンでしっかりと固定されていることを確認してください。



アームサポートは、移乗のために座面と同じ高さまで下げることができます。



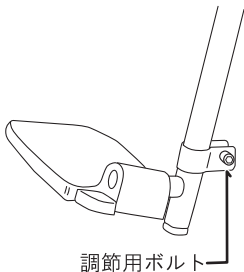
アームサポート高を座面と同じ高さまで下げたときは、調整ボタンによるロックはされません。



注意 警告

アームサポートが落ちないように、アームサポートを手で持ちながらロックを解除してアームサポートを下げてください。アームサポートから手を離してロックを解除すると、落ちたアームサポートとフレームで手指や身体をはさんでケガをするおそれがあります。

フットサポートの調節のしかた



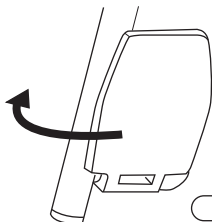
フットサポート高調節用ボルト
締め付けトルク 6 ~ 7 Nm

- フットサポートプレートの上にある、調節用ボルトを4mmの6角レンチで緩めて、フットサポートの高さを合わせてから、調節用ボルトをしっかり締め付けます。
(極端に強く締めすぎると、締付けクランプ部品が破損する場合がありますのでご注意ください。)



注意

- ・調節後はしっかりと調節用ボルトを締めて固定してからご使用ください。(極端に強く締めすぎると、締付けクランプが破損する場合がありますので注意下さい。)
- ・フットサポートを下げすぎると、段差やスロープ等でつまずくことがあります。フットサポートの最下端部で、地面から5cm以上あけてください。
- ・調節用ボルトが完全に緩んでいない状態で無理にフットサポートを動かさないでください。ポストにキズがつき、調節がしにくくなる場合があります。
- ・フットサポートに腰掛けたり、登ったりしないでください。

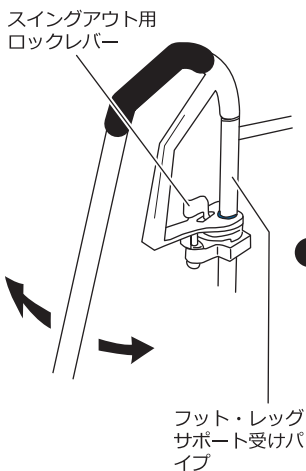


出荷時

出荷時はフットサポートを、外側後方に回転して収納してある場合があります。上記説明の通りに調節用ボルトを緩めて、フットサポートプレートを前方に回転させ、高さを調節してから、調節用ボルトをしっかり閉めて固定してください。

挙上式フット・レッグサポートの開きかた・着脱のしかた

開きかた・はずしかた



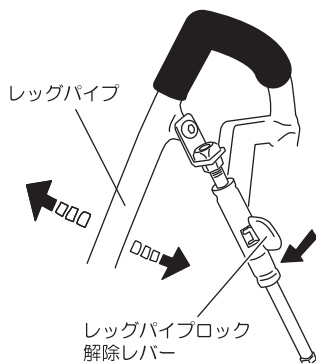
※乗車者の足をフットサポートから外した状態で操作を行ってください。

- ①スイングアウト用ロックレバーを外側へ押しながら、フット・レッグサポートを外側に開きます。
- ②フット・レッグサポートを外側へ45°程度回転させると、フット・レッグサポートを上方に引き抜いて外すことができます。

取り付けかた

- ①フット・レッグサポートを外側に45°程度開いた状態の角度で、フット・レッグサポートのインナーパイプをフット・レッグサポート受けパイプの穴に、上からまっすぐ差し込みます。
- ②フット・レッグサポートを「カチッ」と音がするまで、内側に向けて回転させてください。

挙上式フット・レッグサポートの挙上のしかた・下げかた



挙上のしかた(上げかた)・下げかた

レッグパイプを片方の手でしっかり持ちながら、もう片方の手で、レッグパイプロック解除レバーを下へ倒します。そのままレッグパイプの角度を任意に調整し、レバーから手を離して角度を固定します。

拳上式フット・レッグサポートの各部の調節のしかた

レッグパッド位置の調節のしかた

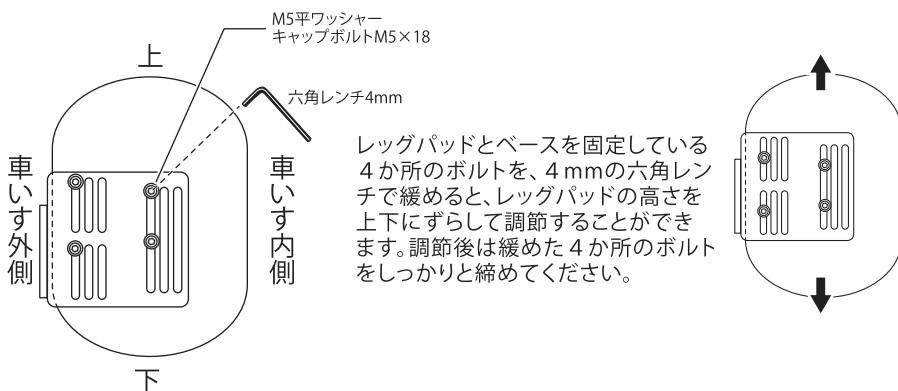


レッグパッド位置の調節につきましては、専門知識と技術を持った販売店にご依頼ください。



注意

レッグパッド位置の調節は、フット・レッグサポートを車いすから外した状態で行ってください。
また、作業中に各部で手指を挟まないようにご注意ください。



レッグパッドベース高さの調節のしかた

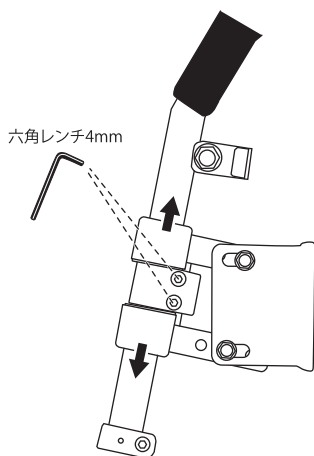


レッグパッドベース高さの調節につきましては、専門知識と技術を持った販売店にご依頼ください。



注意

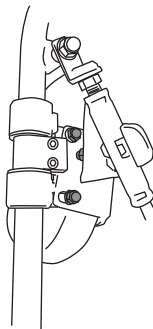
レッグパッドベース高さの調節は、フット・レッグサポートを車いすから外した状態で行ってください。
また、作業中に各部で手指を挟まないようにご注意ください。



レッグパッドベースをレッグパイプに固定しているクランプの2か所のボルトを、4mmの六角レンチで緩めると、レッグベースの高さを上下にずらして調節することができます。調節後は緩めた2か所のボルトをしっかりと締めてください。

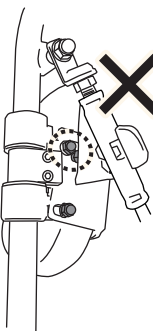


レッグパッドベースの高さを調節したときはナットどうしが当たらないことを確認してください。



正常に使用できる状態

レッグパイプを引き込んだ状態でもナットが当たらない状態



再調節が必要な状態

レッグパイプを引き込んだときにナット同士が当たってしまう状態



ナットどうしが当たらないようにレッグパッドベースの高さを再調節してください。

拳上式フット・レッグサポート(オプション)の各部の調節のしかた

レッグパッドベース角度・奥行の調節のしかた

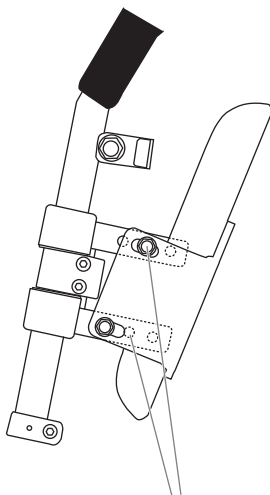


レッグパッドベース角度・奥行の調節につきましては、専門知識と技術を持った販売店にご依頼ください。



注意

レッグパッドベース角度・奥行の調節は、フット・レッグサポートを車いすから外した状態で行ってください。
また、作業中に各部で手指を挟まないようにご注意ください。

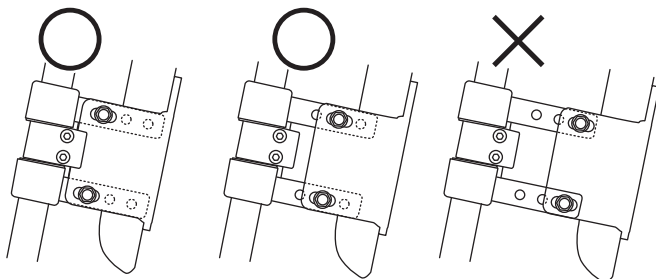


レッグパッドベース角度
調節用ボルト・ナット

上図 2 か所のボルトを、4 mmの六角レンチと10mmのスパナで緩めると、レッグパッドベースの角度を調節することができます。調節後は緩めた 2 か所のボルトとナットをしっかりと締めてください。

レッグパッドベース角度調節用ボルト・ナットをはずして穴位置をかえて組みかえることで、ベースの奥行を調節することができます。その場合、ステーの最後部の穴は使用しないでください。(下図参照)

調節用ボルトのワッシャー類は元通りにセットし、ボルトとナットはしっかりと締めてください。

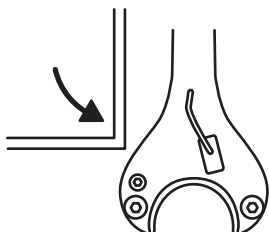




レッグパッドベースの調節をしたときは、レッグパッドベースのカドがレッグサポート取付部に当たらないことを確認してください。

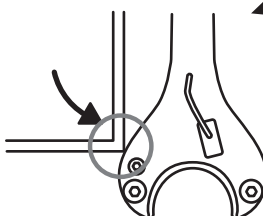
正常に使用できる状態

レッグパッドベースのカドが、レッグサポート取付部に当たらない状態



再調節が必要な状態

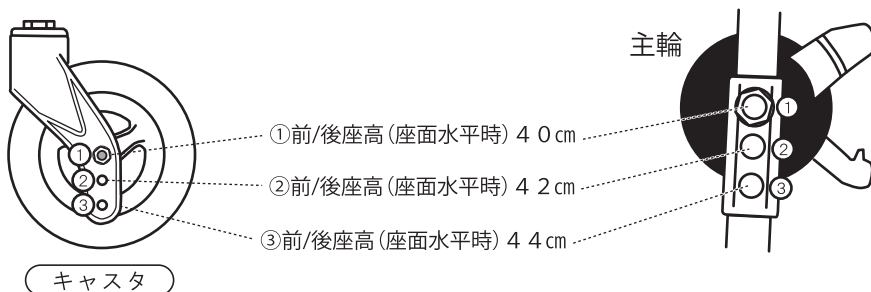
レッグパッドベースのカドが、レッグサポート取付部に当たってしまう状態



レッグパッドベースのカドが、レッグサポート取付部に当たらないように、レッグパッドベースの角度・奥行を再調節してください。

座面高の調節について

キャスタ車輪を止めている車軸ボルトの穴位置と駆動輪（主輪）を止めている車軸ボルトを取付けている穴の位置を変更することで座面の高さを変更することができます。



キャスタ車輪の車軸と駆動輪の車軸は①・②・③のうちの同じ番号の位置に設定してください。

※座面高を変更する場合は、手動式駐車ブレーキ及び足踏み式駐車ブレーキの調節と転倒防止装置の組替えも必要となります。

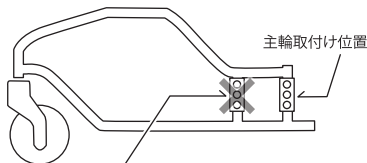


禁止

キャスタと駆動輪の車軸を①・②・③の番号が異なる組合わせで設定しないでください。正常な走行ができなくなり危険です。



禁止



前方の3連穴を使用して主輪を取付けしないでください。使用中の製品の転倒のおそれが高まり危険です。

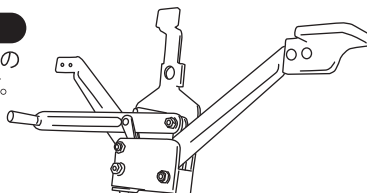


注意
警告

- ・車軸ボルト・ナット類はしっかり締めてください。車輪が脱落し、事故につながるおそれがあります。
- ・車軸ボルトのワッシャー類・足踏み式駐車ブレーキは元通りにセットしてください。

足踏み式駐車ブレーキ

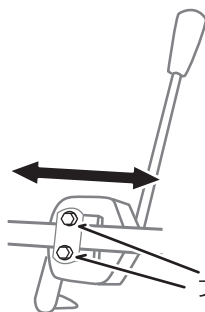
ドラムブレーキ金具とフレームの車軸ラックの間に挟みこみます。



座面高の変更につきましては、専門知識と技術を持った販売店にご相談・ご依頼ください。

手動式駐車ブレーキの調節方法

❗ 座面高を変更する場合にも調節が必要です



- ① 駐車ブレーキのブレーキ取付けボルトを緩めます。
- ② ブレーキがしっかりかかる位置までブレーキ本体をずらします。
- ③ ブレーキ取付けボルトをしっかりと締めて固定し、完了です。



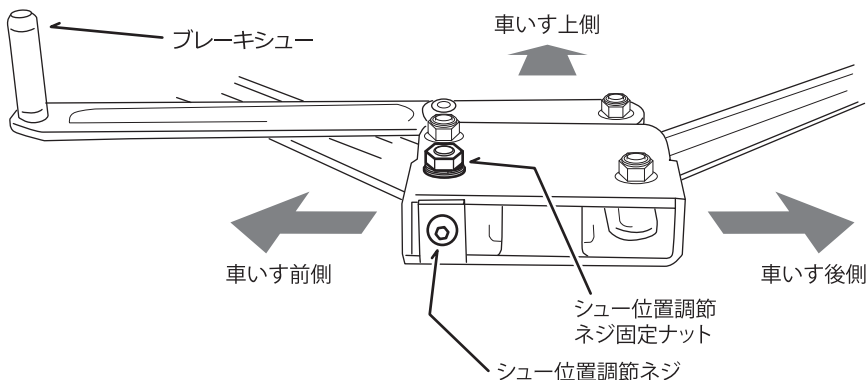
使用前には、駐車ブレーキがしっかり効くかどうか、駐車ブレーキがブレーキ取付ボルトとブレーキ取付けプレートでしっかり固定されているかどうか、必ずご確認ください。



ブレーキの調節につきましては、専門知識と技術を持った販売店にご相談・ご依頼ください。

足踏み式駐車ブレーキの調節方法

❗ 座面高を変更する場合にも調節が必要です



- ① シュー位置調節ネジ固定ナットを緩めます。
- ② シュー位置調節ネジを回し、ブレーキがしっかりかかる位置にブレーキシューを調節します。
- ③ シュー位置調節ネジ固定ナットをしっかりと締めて固定し、完了です。



調節後は、駐車ブレーキがしっかり効くかどうか、シュー位置調節ネジ固定ナットがしっかりと締められているか、必ずご確認ください。



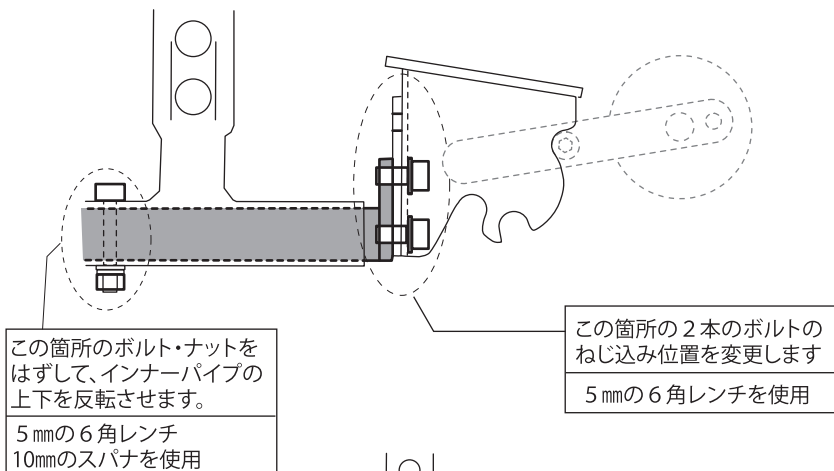
ブレーキの調節につきましては、専門知識と技術を持った販売店にご相談・ご依頼ください。

転倒防止装置の組替えについて

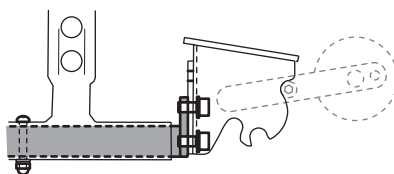
❗ 座面高を変更する場合には組替えが必要です

転倒防止装置は、車いすの座面高の設定にあわせて組替えが必要です。下図を参照し、組替えを行ってください。

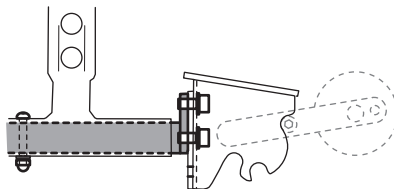
❗ 転倒防止装置の組替えにつきましては、専門知識と技術を持った販売店にご相談・ご依頼ください。



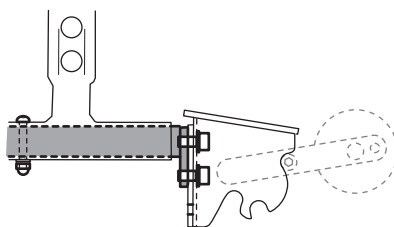
前/後座高
40 cmの場合



前/後座高
42 cmの場合



前/後座高
44 cmの場合



注意
警告

ボルト、ナットのワッシャー類は元通りにセットしてください。
組替え後は、インナーパイプと転倒防止装置を固定するボルト・ナットがしっかりと締めつけられていることを確認してください。



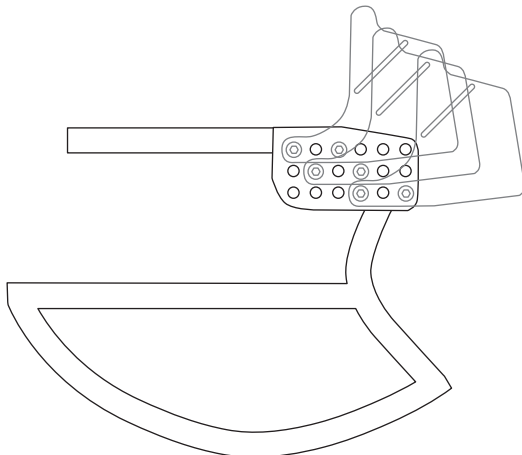
禁止

転倒防止装置を車いすの座面高と異なる設定で使用しないでください。

リクライニング支点・ティルト支点の変更について



リクライニング支点・ティルト支点の変更につきましては、専門知識と技術を持った販売店にご相談・ご依頼ください。



REDWOOD IIIは、シートフレームとバックサポートフレームを連結しているプレートの組付け穴位置を変更することで、リクライニング支点・ティルト支点を変更することができます。



**注意
警告**

ティルト支点・リクライニング支点の変更についてはご利用者様ご自身だけで判断をせず、専門の医師やリハビリテーションの専門家等にご相談ください。

設定の変更の際は、ボルト、ナットのワッシャー類は元通りにセットしてください。プレートを固定するボルト・ナットがしっかりと締めつけられていることを確認してください。

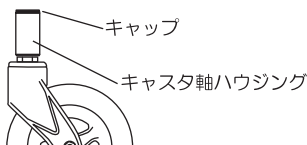


販売店様へ

ティルト支点・リクライニング支点の選択可能なセッティングにつきましては販売店様向けの資料でご確認ください。
誤った設定で組付けをする製品の破損や事故のおそれがありますのでご注意ください。

使用前点検(必ず行ってください)

- 介助ブレーキがしっかり効くかどうかご確認ください。
 - 駐車ブレーキがしっかり効くかどうかご確認ください。
 - 左右の転倒防止装置が正しく装着されているかどうかご確認ください。
 - ヘッドサポートフレームとヘッドサポートが正しく装着されているかどうかご確認ください。
 - ティルト・リクライニングがスムーズに動作するかどうかご確認ください。
 - 介助ブレーキ・ティルト・リクライニングのワイヤーの張り具合が適当かどうか点検し、正常に動作するかどうかご確認ください。
 - ネジ・ボルトのゆるみがないか、フレームのガタつきがひどくないかご確認ください。
※特に、駐車ブレーキの取付け部や、車輪軸部は確実に確認してください。
 - シートに亀裂や破れがないかどうかご確認ください。
 - バックサポートインナー及びアウターシートが面ファスナーで確実に取り付けられていることをご確認ください。
 - 主輪タイヤの溝がなくなりかけていないか、タイヤに亀裂がないか、ご確認ください。
 - 車輪のガタ・緩み・曲がり等がないかご確認ください。
 - 前輪キャスト輪及びキャストフォークに変形、ひび割れ等がないかご確認ください。
 - 前輪キャストが緩んでいないか、抜け落ちていないかご確認ください。
 - バックサポートのインナーシートとアウターシート、座クッションが正しくしっかりと取付けられているかご確認ください。
 - 左右のアームサポートがしっかりと装着されているかご確認ください。
 - バックサポートと座下の幅止めが正しく伸びていることをご確認ください。
 - 各部パーツの変形、破損がないかご確認ください。
- キャスタ軸ハウジング上端のキャップが、キャスト軸ハウジングにしっかりとハマっていることを確認してください。キャップが浮いている場合はキャストフォーク固定ボルトが緩んでいる可能性がありますので、使用を中止し、販売店に点検を依頼してください。



警告

製品に異常がある場合は使用を中止し、すみやかに販売店に修理・部品交換・調整をご依頼ください。

メンテナンス・保管方法

- ネジの緩み、フレームのガタつきなど、目視や簡単に手で触って分かるようなチェックは、日常的に行ってください。
- 各部のメンテナンス(調節・補修・修理・部品交換等)はお買い上げの販売店にご依頼ください。
- シートが汚れた場合は中性洗剤を染み込ませた布で汚れを拭き取り、その後水で濡らした布で洗剤をきれいに拭き取ってください。汚れを取ったあとは、完全に乾燥させてからご使用ください。生乾きでの使用はカビや異臭の原因となります。
- 屋内の湿気が少ない場所に保管してください。雨に濡れたり、湿気の高いところには保管しないでください。
- 直射日光の当たる場所や高温多湿な場所での長期保管は避けてください。



注意・警告

主に製品を使用する前にご注意をいただくことや、メンテナンス等についての注意

- 各部のガタつきやネジのゆるみ、タイヤのすりへり、その他の不具合により、思わぬ事故につながる場合があります。定期的に取り扱い業者のチェックを受け、不具合がないか確かめてください。
- フレームの折れ、曲がり、シート・ベルト類の破損など壊れた状態での使用はしないでください。（使用中止し、すみやかに販売店へ修理、部品交換をご依頼ください。）
- 水にぬれた場合、そのままにしておく製品に錆びやカビが出ることがあります。ぬれた場合は乾いた布ですみやかに拭きとってください。水中での使用はしないでください。
- 気温の差の激しい場所や異常に高温な場所（車中など）に製品を放置しないでください。フレームが痛むばかりでなく、熱くなったフレームで火傷をしたり、高温になったシートに座ることで体調に悪影響を与えることがあります。
- 改造や分解はしないでください。
- 当取扱説明書内に記載の寸法や重量の値には、製造の都合上、多少の誤差がありますのでご了承ください。

主に製品を使用中・走行中にご注意をいただくこと

- 使用者の体調が著しく低下しているときは、十分に注意して使用してください。
- 身体寸法や身体の状態が車いすに合わない場合は使用をしないでください。からだに合わない状態で製品を使用すると、製品の故障や事故、身体への悪影響につながるおそれがあります。
- シートの張り調整が不適切な状態での使用はしないでください。
- 走行時には地面に凹凸や障害物がないか十分に注意してください。走行中、各部に凹凸や障害物が引っかけると、転倒や製品の破損のおそれがあります。
- 倒れかかるような座り方や、身を乗り出すような座り方はしないでください。バランスをくずして転倒することがあります。
- 乗車中に大きな前かがみの姿勢をとらないでください。（例：足下や前方にあるものを触ろうとしたり、拾おうとして、前かがみの姿勢にならないようご注意ください。）バランスをくずして車いす及び搭乗者が前方に転倒するおそれがあります。
- 悪路や坂道では特に注意して操作してください。バランスをくずして転倒することがあります。
- エスカレーター及び動く歩道での使用はしないでください。転落、転倒による事故のおそれがあります。
- 公共交通機関で使用の際は、係員の指示に従い、安全に搭乗してください。
- 踏切りを横断の際は、車輪・キャスト輪をレールに対して直角にして走行してください。斜めの角度で進入するとレールの溝にはまる危険があります。
- 手押しハンドルや各部フレームなどに手荷物等を掛けないでください。荷物等が各部に当たり誤動作をしたり、バランスをくずして転倒するおそれがあります。
- フットサポートの上に立たないでください。製品の破損だけでなく、転倒による事故のおそれがあります。
- 坂道での駐車はしないでください。やむを得ず駐車する場合は2輪以上に車止めをしてください。
- 乗車者・介助者とも、車いす使用時には靴をはいてください。はだして車いすを使用しないでください。思わぬケガのおそれがあります。
- ヘッドサポートフレーム及びヘッドサポートを取りつけない状態での使用はしないでください。
- 左右の転倒防止装置を取りつけない状態での使用はしないでください。
- 左右のフット・レッグサポートを取りつけない状態での走行はしないでください。
- ティルトにより座面を水平より前傾させた状態での走行はしないでください。乗車者の落下のおそれがあります。



注意・警告

その他にご注意をいただくこと

- フレームの座面下側や、車輪、各部の隙間等に手を入れなください。各部が動いたり、でっぱりに触れたりすると、ケガのおそれがあります。
- 持ち運びの際は、メインフレーム以外を持たないでください。(アームサポートやフット・レッグサポート、手押しハンドル、シート等を持って運ぶと、製品の破損や事故につながるおそれがあります。)
- 本書記載以外の使用はしないでください。
- 踏台や脚立・歩行器のかわりに使用しないでください。
- 子供に操作をさせないでください。
- 二人乗りなど多人数での使用はしないでください。
- 体重が製品の耐荷重を超える方の使用はしないでください。
- 周辺に小さなお子様がいるときは、指や手足を挟むなどして、ケガをするおそれがありますので十分にご注意ください。
- 製品をゆすったり、踏んだりなどの乱暴な取扱いをしたり、落としたり、たたいたりなどの強い力や衝撃を与えないでください。製品が破損することがあります。
- 製品の改良・改善により、詳細において本書の内容と異なる場合があります。不明な事柄につきましては、販売店までお問合せください。



ウレタン素材には **寿命** があります。

- クッション性に優れているウレタン素材は、使用頻度にかかわらず経年変化を起こし、割れ、ヒビ、崩れを起こし、破損するおそれがあります。
- 特に通気の悪い場所での長期間の保管は避けてください。
- 割れやヒビ、崩れ等の症状が発生した場合は使用を中止し、販売店に部品交換を依頼してください。



キャスタ輪
主輪

アームサポート
パッド

など

MEMO

MEMO

保証規定

I. 保証の範囲

1. 保証期間中に品質の不完全に基づく故障を生じた場合には下記の保証書により無料で修理いたします。
2. 保証期間はご購入後1年間です。
3. 但し、次の場合は保証期間中でも有料になります。
 - (a) 取扱い過誤による故障。
 - (b) 製品に改造を加えた場合の故障。※純正品以外の部品を使用した場合も含まれます。
 - (c) 天災、地変等による故障ならびに損傷。
 - (d) 消耗部品、タイヤなど。
 - (e) 保証書にお買い上げ店名の記載、捺印のない場合。
 - (f) 保証書のご提示がない場合。
4. 以上の保証は本製品を日本国内に設置した場合に限ります。
5. この保証書によってお客様の法律上の権利を制限するものではありません。

II. サービスのご用命

保証期間中、万一故障が生じた場合はご購入の販売店へ保証書を添えてお申し出ください。

III. ご注意

保証書は再発行しませんので大切に保管してください。

品質保証書

本商品については上面記載の「保証規定」により正常な使用状態において故障が生じた場合に限りご購入日より「1年間」無償にて修理致します。

機種	REDWOOD III SP フット・レッグサポート拳上式仕様		
お客さま	ご住所	〒	
	(フリガナ) 氏名	TEL	
お買上げ日	日	保 証 年 月 日	日 まで
販売店	見本 (印)		
総販売元			
製造元	日進医療器株式会社 〒481-8681 愛知県北名古屋市沖村権現35-2 TEL <0568>21-0635(代) FAX <0568>23-2787		

日進医療器株式会社

本 社 〒481-8681 愛知県北名古屋市沖村権現35番地の2
TEL<0568>21-0635(代) FAX<0568>23-2787
東京営業所 〒112-0002 東京都文京区小石川 1-21-14
TEL<03>3814-0923(代) FAX<03>3814-4644
大阪営業所 〒533-0013 大阪府大阪市東淀川区豊里 6-16-10
TEL<06>6323-8265(代) FAX<06>6326-2554
九州営業所 〒812-0876 福岡県福岡市博多区昭南町2丁目3-8
TEL<092>513-5036(代) FAX<092>513-5038

製品の廃棄方法

ご不用となった製品を処分される場合の廃棄方法につきましては、お住まいの自治体のルールに従ってください。